説明的文章 段落の要点・関係の捉え方

1 ライオンの「食」といったとき、ライオンが肉切れを食べるところだけを頭に描いたとすればそれは一面的なとらえ方でしかなく、ライオンのライオンらしさをとらえることはできない。どのような生物界にくらしているのか、そこでどのようにして獲物を見つけだし、どのようにして接近し、その獲物をどのようにして捕えて殺すのかということまで頭に描かなければいけない。

2 同様に、人間の「食」といったときも、食卓にすわっての食事だけを頭に描いたのではやはり一面的なとらえ方になってしまう。カロリーと栄養のバランスだけが人間の「食」のすべてではないのである。

3 人間の「食」には、さまざまな人間の手が加わっている。食事のときにはしやスプーンを使うのも一つのあらわれだが、それだけではない。わたしたちが毎日食べているお米を例に考えてみよう。お米のもとはイネの種子である。このイネは人間が人間のためにつくりだした作物の一種であり、田んぼで栽培されている。

4 この田んぼを耕すためにはいろんな農機具を使う。その農機具は別の所で別の人たちがつくる。堆肥は別にしても化学肥料を入れるとすればその肥料もまったく別のところで別の人たちがつくっている。

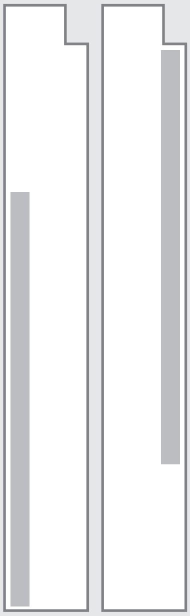
5 人間は社会的存在として食べているというのは、まさにこのことである。動物の食べるとはまったく違っているのである。

（黒田弘行『食の歴史』農山漁村文化協会 による）

段落の要点・関係

各段落の**要点**（中心となる内容）を捉えるには、次のような箇所・表現に注目するとよい。

・各段落の初めや終わり。



・「まとめ」や「筆者の意見」を表す文。

（例）つまり、……。　このように、……。
……と思う。　……べきだ。

各段落の要点や、段落の冒頭の接続語などに注目すると、段落どうしの関係がわかりやすくなる。

例題

3 段落の要点（中心となる内容）を表す一文を選び、その最初の三字を答えなさい。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の中心的な話題として適当なものを選びなさい。

ア 生物ごとに異なる食物。
イ 人間の「食」の特徴。
ウ イネの栽培のあり方。

〔　　〕

(2) 各段落について正しく述べているものを選びなさい。

ア [2]段落で提示された事柄について、[3]・[4]段落では具体例を挙げて考察している。
イ [2]段落で提示された事柄に対して、[3]・[4]段落では筆者の視点から反論を加えている。
ウ [2]段落で提示された事柄に対して、[3]段落では結論を、[4]段落では別の話題を提示している。

〔　　〕

(3) ――線部「人間は社会的存在として食べている」とあるが、なぜこのように言えるのか。適当なものを選びなさい。

ア 人間は、それぞれの社会の文化によって食べるものが異なるものだから。
イ 人間の「食」は、さまざまな社会的な関係の中で成り立っているものだから。
ウ 人間の社会は、食料が確保されることではじめて存在しているものだから。

〔　　〕